

う ら ぼ ん
盂 蘭 盆 法 要

～ 自分自身を不信心だと思ふ人ほどお参り下さい ～



令和元年8月16日(金)

午後1時～ 納骨堂法要 (納骨堂に有縁の方はお参り下さい)

午後1時30分～ 盂蘭盆会(うらぼんえ)法座

石狩市八幡町高岡 16-2 光明寺

ウラ面もご覧下さい

浄土真宗のお盆のはなし

お盆といえば、故郷への帰省や親戚一同が集まり近況報告などの話に花を咲かせ、そしてお墓や納骨堂へ足を運びご先祖を偲ぶ大変尊い風習です。ご門徒から「お盆にあたって特に用意やお供えなど気を付けることはありませんか？」と聞かれることがあります。

そこで今回は浄土真宗のお盆の迎え方をご紹介します。

一般的に「お盆」というと、1年に1度ご先祖がわが家のお仏壇に帰ってくる期間、と思いきわかれるのではないのでしょうか。

そこでお盆には絵のように盆提灯を出し、精霊牛馬(しょうろうぎゅうば)が飾られていることがあります。

一見するととってもらしいお盆のお飾りに思えますが、浄土真宗の教えに照らし合わせると必ずしも正しいこととはいえません。

盆提灯の意味は、俗習でお盆にご先祖がわが家へ帰ってくると信じられ、その際間違ってもその家へ行かないように目印の為と言われてはいますが、酔っ払いのお父ちゃんでもわが家を間違えることは余りありません。

北海道ではあまり見かけることが少ない精霊牛馬ですが、キュウリを馬に見立て盆の入りには足の速い乗り物で早く帰ってきて、と、そして茄子を牛に見立てるのはご先祖が「あの世」へ帰るのが名残惜しくゆっくりお帰り下さい、という意味だそうです。

ただ、浄土真宗には「還相回向(げんそうえこう)」という教えがあり、お浄土へ往かれたご先祖はお盆だけに還ってくるのではなく、仏様のお姿で常に私たちのそばで見守って下さっているのです。

仏教とは関係のない昔からの風習で、枕飯に箸をさして「死んだのだから帰ってくるな」と言ったかと思えば、片や「お盆には帰ってこい」と、私たちの思いとは実に勝手なものだと思わされます。

ですから、当宗派ではお盆にあたって特に用意するお飾りやお供えなどは無く、お西お東の別無く普段通りのお参りの仕方です。

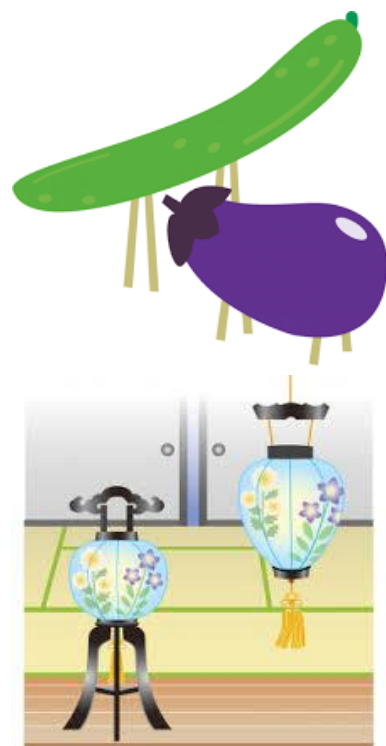
ただ一つ、お仏壇やお墓にお参りして終わりにするのではなく、お寺の盂蘭盆(うらぼん)法要にお参りしてお盆の締め括りにしましょう。

それが、亡きご先祖が私たちへ一番望んでいることなのです。

でも、盆提灯が出ていると「あ～、お盆だね～」と思いつつお参りする住職のような坊さんもいます。

提灯はご先祖が帰る際の目印と思うのではなく、阿弥陀様からこの私を照らして下さる慈悲と智慧の灯りと味わいましょう。

ひとつ参考になれば、と思いますが、提灯や精霊牛馬などを飾ると祟られるとか、悪いことが起こるなどということはありませんので、一番大事なことは皆様のご先祖への感謝を忘れずお参りを欠かさないことです。



光明寺ホームページご覧下さい

<http://www.ishikari-koumyouji.com>

石狩 光明寺

